

マラウイの主な移動方法は乗り合いバス・ミニバス（大型のワゴン）です。

首都だとトゥクトゥク（インド製の三輪タクシー）、長距離移動になるとビックバスもあります。

田舎になるとマトーラという荷台がある車の荷台に乗ります。満員電車の野外バージョンのようです。

どこに座るスペース・立つスペースあるの？っという所に押し込まれます。

また自転車タクシーもあります。

汗だくになって一生懸命自転車を漕いでくれます。

でも急な坂は一緒に歩きます。

時々ブレーキのない自転車があったり、走行中にチェーンが外れる事もあります。



　マラウイには日本の車がたくさん走っています。

特に中古のトラックや大型のワゴン車が多く見られます。車体には○○スクール、○○老人ホーム、などと書かれている車がミニバスとして使用されています。

そのため日本から遠く離れたマラウイでも日本語を見る機会がよくあります。

たまにトラックが『左へ曲がります』と言ったりもします。

日本は安全重視で車検も厳しいですが、日本で乗れなくなった車がこちらで頑張ってます。

フロントガラスが割れても、ドアの内側の構造が丸見えでも、シートのクッション性が全くなくなっても、車体を押さないとエンジンかからなくても、ドアが開かなくても。

そしてマトーラ同様に、乗車人数の多さに驚かされます。

日本だとせいぜい１２人程度のミニバスの座席数に対し、２０人前後乗車する事もあります。

しかも、満席になるまで待ちます。長い時で２時間くらい待ちます。

道中でお客さん拾えるのに・・・。これはビッグバスも同じで運が悪いと乗客が集まらず出発しないという事態も起こります。

おかげで待つことも随分慣れました。



　また、アジアでは農耕などで家畜を利用する事も見られますが、マラウイはほとんど上の写真のように荷物を運んだり、時には患者さんを運んだりという事に利用されています。

ちなみに救急車もあります。患者さんを運ぶ時もあるのですが、職員の送迎に使用される事も多くあります。ガソリン代も高く、ガソリンを買えない為、必要な物を届けてもらえなかったりします。

このように、日本と大きく違う環境だという事が「交通」という事だけを比較してもよく分かりますね。

先日、同僚のもとに手紙が届きました。

そこには仕事の面接日が書いてありました。

しかし、面接日は届いた日の前日。すでに期限切れ。

キャリアアップの機会を逃しても、「今届いたからしょうがないね」と怒らないマラウイ人。

その様子に関心しながらも、受け止めてばかりで改善しなくていいのかな・・と複雑な気持ちでした。

インフラ整備こういう意味でも大事ですね。

それでは今回のトゥンブカ語も交通にちなんで・・・

【Nikumba kuluta ku Tottori.】　鳥取に行きたい。

【Nyengo yitali uli?】 どれくらい時間がかかる？

【Kasi ningakara pano?】 ここに座っていいですか？

Tisanganenge♪